

ロシア・東欧学会 *Newsletter* No. 14

The Japanese Association for Russian and East European Studies

2007 年度大会は 10 月 20-21 日 大阪大学で開催 共通論題の概要固まる

2007 年度（第 36 回）研究大会は、2007 年 10 月 20 日（土）・21 日（日）の両日、大阪大学で開催されることが決まりました。大会での共通論題テーマは、本年 1 月の理事会で検討した結果、「拡大するロシアと世界」とすることとなりました（後述の第 3 回理事会議事録を参照）。

また、大会企画委員長に選出された宮本勝浩会員（関西大学）が中心となり、共通論題報告者・討論者・議長（司会者）の人選を進めた結果、次のような概要となりました。

第 1 報告「ロシアの 2008 年問題と世界」

報告者：袴田 茂樹（青山学院大学）

討論者：下斗米伸夫（法政大学）

議長：木村 汎（拓殖大学）

第 2 報告「環黒海地域の変動」

報告者：松里 公孝（北海道大学）

討論者：湯浅 剛（防衛研究所）

議長：羽場久美子（青山学院大学）

第 3 報告「復活するロシアと東アジア」

報告者：吉田 進（環日本海経済研究所）

討論者：田畑伸一郎（北海道大学）

議長：宮本 勝浩（関西大学）

なお、昨年度に引き続き、Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES) との一部共催も検討されています。会員諸氏多数の参加をお願いします。

2007 年度大会 自由論題報告希望者募集 締め切りは 5 月末日必着

ロシア・東欧学会 2007 年度大会の自由論題報告を希望される会員は、2007 年 5 月末日までに、氏名、住所、電話番号、所属、報告のタイトル、報告要旨（400 字以内）を、宮本勝浩・研究大会企画委員長（aej14740@wood.odn.ne.jp）まで e-mail（やむを得ない場合は郵便で）お知らせ下さい。なお、この報告要旨は、次回理事会での承認および分野別に編成される分科会への割り振りを決定する際の参考にするためのもので、大会当日に配布するレジюмеではありません。レジюмеの提出期限等については、別途、大会開催校より各報告者にご連絡がいくと思いますが、8 月末～9 月中旬ぐらいがメドになります。

なお、大会プログラムの詳細は未定ですので、大会期日の 10 月 20 日（土）・21 日（日）のいずれの日のどの時間帯に自由論題報告がおこなわれるかも現時点では未定です。プログラムの詳細は決まり次第ホームページその他の方法で告知されますので、あらかじめご承知おき下さい。

また報告者数は、プログラム編成上、限りがありますので、自由論題報告希望者数が報告可能人数を上回った場合には、同一会員が 2 年連続で報告するのを避ける、過去の報告回数の少ない会員を優先する、当学会における報告として論題が適切かどうかを考慮する、という原則によって理事会・企画委員会が検討し、報告をご遠慮いただく場合がありますので、この点もあらかじめご承知おき下さい。

新役員決まる

郵便投票による理事選挙

2006年度は理事選挙の年にあたります。ニューズレター第13号でお知らせしたように、5～6月、郵便投票による選挙が実施されましたが、その結果、次の会員が理事に選出されました（敬称略、五十音順）。

伊東孝之（早稲田大学）、岩下明裕（北海道大学）、上垣彰（西南学院大学）、上野俊彦（上智大学）、宇多文雄（上智大学）、宇山智彦（北海道大学）、小澤治子（新潟国際情報大学）、香川敏幸（慶應義塾大学）、川端香男里（川村学園女子大学）、木村汎（拓殖大学）、小森田秋夫（東京大学）、柴宜弘（東京大学）、下斗米伸夫（法政大学）、沼野充義（東京大学）、袴田茂樹（青山学院大学）、羽場久美子（法政大学）、林忠行（北海道大学）、藤本和貴夫（大阪経済法科大学）、溝端佐登史（京都大学）、横手慎二（慶應義塾大学）

当選者会合における理事の選出

2006年11月17日（木）、青山学院大学で理事選挙当選者による会合が開催されました。ここでは、規定に従い、選挙によらない理事が選出されました。なお、郵便投票により選出された木村汎会員が理事就任を辞退されたことにより、当選者会合では21名が選出されました（敬称略、五十音順）。

家本博一（名古屋学院大学）、五十嵐徳子（天理大学）、岩田賢司（広島大学）、岩田昌征（東京国際大学）、小山洋司（新潟大学）、斎藤元秀（杏林大学）、左治木吾郎（東京国際大学）、志摩園子（昭和女子大学）、仙石学（西南学院大学）、角田安正（防衛大学校）、永綱憲悟（帝京大学）、中村裕（秋田大学）、廣岡正久（京都産業大学）、松井弘明（大東文化大学）、松里公孝（北海道大学）、皆川修吾（愛知淑徳大学）、宮本勝浩（関西大学）、望月哲男（北海道大学）、安岡治子（東京大学）、湯浅剛（防衛研究所）、吉井昌彦（神戸大学）

代表理事、事務局長、会誌編集委員長の選出

2006年11月18日（土）12:45～13:45、青山学院大学にて、上記理事による最初の理事会となる2006年度第2回理事会が開催されました。理事会は、互選により、代表理事、事務局長、会誌編集委員長を選出し、

直ちに総会に承認を求めました。同日、青山学院大学で開催された2006年度総会（第2部）で承認された上記役員、および代表理事に指名された副代表理事は次の通りです（敬称略）。

代表理事（再任）:	袴田 茂樹
副代表理事（再任）:	藤本和貴夫
事務局長（再任）:	羽場久美子
会誌編集委員長:	溝端佐登史

会計監事の選出

2006年11月18日（土）青山学院大学で開催された総会（第2部）において、次の会員が会計監事に選出されました（五十音順、敬称略）。

大津定美（大阪産業大学）、三井光夫（世界政経調査会）

2006年度第2回理事会開催

2006年11月18日（土）に開催された2006年度第2回理事会に関し、上記役員選出関連以外の報告・審議事項は以下の通りです。

1. 報告事項

(1) 香川敏幸・前会誌編集委員長より、2006年度の雑誌第34号が3月に刊行されたこと、また、2006年度研究大会後、引き続き第35号の原稿蒐集・審査に入ることが報告されました。

(2) 羽場事務局長より、現在の会員数（約420名）、ニューズレター第13号の発送（9月）が報告されました。また、2005年度決算および2006年度予算（案）について報告がありました。

(3) 事務局長より、日本学術会議に関し、以下の通り報告がありました。2006年度より第20期日本学術会議が発足し、ロシア・東欧学会からは袴田代表理事、羽場事務局長が連携会員となり、日本学術会議内に新たに設置された地域研究委員会・地域基盤検討分科会に所属して活動することが報告されました。また、地域研究連絡協議会（JCASA）は、新たに日本学術会議の内部に組み込まれ、各地域研究団体の代表と連携して活動する方針であること、これに伴い、ロシア・東欧学会のウェブサイトも日本学術会議ならびにJCASAのサイトとリンクを張り、相互に連絡を取り

合う方針であることが説明されました。

(4) 今回、JSSEES との合同大会が成功裏に進行し、多くの参加者と質の高い議論が行われていること、また、今後もこうした連携を検討していくことが報告されました。

2. 審議事項

(1) 事務局より、丹羽春喜先生の名誉会員への推挙が提案され、了承されました。

(2) 2005 年度決算、同会計審査、2006 年度予算案が審議の結果承認されました。

(3) 2007 年度研究大会開催校は審議の結果、大阪大学で開かれることが決定し、藤本副代表理事、五十嵐理事、そして新たに会員になられたヨコタ村上孝之氏（大阪大学）が中心となって準備することとなりました。また、次回も JSSEES との合同大会を行うべく、検討を続けることとなりました。

2006 年度第 3 回理事会開催

2007 年 1 月 27 日（土）、法政大学市ヶ谷キャンパスで 2005 年度第 3 回理事会が開催されました。袴田代表理事の挨拶ならびに新理事の自己紹介のあと、理事会では以下の報告および審議が行われました。

1. 報告事項

(1) 代表理事より、前回の理事会で了承された丹羽春喜先生の名誉会員への推挙について、ご本人からご承諾と謝辞をいただいたことが報告されました。

(2) 代表理事より、青山学院大学で開催された 2006 年度研究大会について報告されました。JSSEES との合同大会としてシンポジウムを行ったことは成功であったこと、また、分科会で規定の時間を超過する報告者が散見され、フロアからの意見を充分聞けない場合があったため、次回からは司会者による時間の統制をより厳格にすべき、などの意見が出ました。なお、研究大会の手伝いをしていただいた青山学院大学大学院生が、大会当日の作業中にパソコンを壊したため、その修理代 10 万円を学会予算から支払ったことが報告されました。

(3) 2007 年度研究大会について、開催校担当として藤本和貴夫副代表理事、五十嵐徳子理事、ヨコタ村上孝之会員を中心に、準備を進めていることが報告されました。

(4) 溝端・会誌編集委員長より、会誌第 35 号は、先般の研究大会での共通論題のうち、月村、下斗米、杉本の各会員による論文が特集論文として掲載されるほか、投稿論文の審査・採否の手続きを進めていること、また、書評も掲載予定であることが報告されました。

(5) 羽場事務局長より、2006 年度末現在の会員数（412 名）、会費納入状況（会費納入率：正会員約 75%、院生会員約 71%）、入会・退会予定者について報告がありました。

(6) 事務局長より、これまでの理事会でも議論されてきたように、会誌余部について中西印刷より保管の有料化の申し出があったため、大学図書館に寄贈し、残りを各理事に配布することを検討したいとの報告があり、了承されました。

2. 審議事項

(1) 溝端・会誌編集委員長より、編集委員の選出について提案がありました。委員には、五十嵐徳子（天理大学）、大中真（桜美林大学）、香川敏幸（慶應義塾大学）、左治木吾郎（副委員長・東京国際大学）、津田憂子（早稲田大学）、角田安正（防衛大学校）、兵頭慎治（防衛研究所）、廣瀬陽子（東京外国語大学）の各会員が選出されました。

(2) 2007 年度研究大会については、各理事からの意見を踏まえ、共通論題のテーマを「拡大するロシアと世界」とし、「ロシアの 2008 年問題と世界」（ポスト・ブーチンのロシア内政・外交の変化を展望する）、「環黒海地域の変動」（黒海地域の政治・経済の変動と展望について、ロシア・東欧・中欧などの関係諸国を通して分析する）、「復活するロシアと東アジア」（経済的な復活を遂げ、自信を回復しつつあるロシアと、中国・韓国・日本などの関係の分析と展望を行う）といった報告テーマが提案されました。

大会全体の調整を行う企画委員長に宮本勝浩会員（関西大学）が選出されました。また、企画委員には、開催校担当の藤本和貴夫、五十嵐徳子、ヨコタ村上孝之の各会員に加え、上垣彰（西南学院大学）、羽場久美子（事務局・法政大学）、松里公孝（北海道大学）、溝端佐登史（京都大学）、湯浅剛（防衛研究所）の各理事が選出されました（理事会終了後、企画委員により共通論題の各セッションのあり方について議論が行われました）。また、JSSEES と連携したイベントに

[5 頁へ続く]

表1 2006年度仮決算および2007年度予算案 [2007年1月27日現在]

	2006年度予算	2006年度仮決算	2007年度予算案
収入の部			
前年度繰越金	3,545,867	3,545,867	4,261,455
会費（注1）	3,040,000	2,962,000	3,040,000
個人	2,890,000	2,892,000	2,890,000
正会員	2,650,000	2,605,000	2,650,000
院生会員	240,000	287,000	240,000
団体	150,000	70,000	150,000
維持会費	20,000	0	20,000
寄付	50,000	52,360	50,000
利息	30	65	30
雑収入	20,000	14,000	20,000
収入小計	3,130,030	3,028,425	3,130,030
総計	6,675,897	6,574,292	7,391,485
支出の部			
大会費	300,000	299,940	300,000
年報発行費（注2）	2,100,000	1,065,158	1,100,000
年報印刷費	2,000,000	1,005,579	1,100,000
ニュースレター印刷費	100,000	59,579	100,000
年報発行編集費	0	0	0
事業費（注3）	40,000	5,000	40,000
学術会議費用	40,000	30,000	40,000
事務局費（事務，謝礼）	300,000	253,740	300,000
事務用品・コピー代	80,000	5,461	80,000
会議費補助	620,000	288,400	700,000
選挙管理費	100,000	113,986	0
会員名簿印刷代	50,000	0	50,000
通信・発送費	160,000	122,904	160,000
利息・手数料料金（注4）	40,000	28,248	40,000
予備費（注5）	200,000	100,000	200,000
支出小計	4,030,000	2,312,837	3,110,000
繰越金	2,645,897	4,261,455	4,281,485
総計	6,675,897	6,574,292	7,391,485

（注1）2007年度予算の会費額は、2006年度の納入状況より、会員総数412名のうち、正会員（331名）80%、院生会員（69名）70%、法人会員（6団体）60%、名誉会員（6名）、で試算。

（注2）年報発行費は、昨年は2年分・2冊を刊行予定のため、210万を計上。2007年度は例年に戻した。

（注3）事業費は、JCREES（日本ロシア・東欧研究連絡協議会）および地域研究学会連絡協議会の負担金。

（注4）「利息・手数料」は、事務局費に含まれる銀行手数料を郵便振替払込料金と合わせたもの。

（注5）予備費は、大会開催や、施設使用料が必要な場合の支出。

表2 新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者	
佐藤 昭裕	京都大学大学院文学研究科	スラブ語学	木村 崇	羽場久美子

[3 頁からの続き]

については、開催校と相談のうえ調整を進めていくこととなりました。

(3) 2006 年度予算仮決算および 2007 年度予算案についての審議がおこなわれ、承認されました [表 1 (4 頁掲載) 参照]。

(4) 新入会員 [上記表 2 参照] についての報告が行われ、承認されました。

(5) 代表理事より、会員増による学会の規模拡大を踏まえ、事務局業務担当者の負担集中といった弊害をなくし、400 名規模の学会にふさわしい効率的な組織運営を進めることをめざして、広報・対外交流・会務についてそれぞれ担当委員を置くことが提案され、理事会がこれを了承しました。

(6) 事務局長より、当学会から 5 名の理事を文部科学省大学評価委員会評価員に推薦することが報告され、了承されました。

ロシア・東欧学会年報 『ロシア・東欧研究』原稿募集

論文、研究ノート、書評、資料紹介の原稿を募集しています。2007 年度の応募締切日は 2007 年 9 月 15 日、原稿提出期日は 11 月末日となっています。自由論題報告者だけでなく、多くの会員のご投稿をお待ちしています。応募の要領、その他詳しいことについては、会誌編集委員会にお問い合わせ下さい。執筆要領については、ロシア・東欧学会ホームページの会則・諸規程のページないしは会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をごらん下さい。

投稿申込先・原稿送付先

ロシア・東欧学会会誌編集委員会
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学経済研究所 溝端佐登史研究室気付
Tel: 075-753-7144
Fax: 075-753-7148
E-mail: mizobata@kier.kyoto-u.ac.jp

年会費、維持会費の納入と ご寄付のお願い

2006 年度年会費につきまして、未納の方はお支払いをお願いいたします。また 2005 年度までの年会費未払いの方も、恐縮ですが、2005 年度までの会費を合わせてお支払い下さい。なお、年会費は、2004 年度総会決定により、2005 年度より、一般会員 10,000 円となっておりますのでお間違のないようお願いいたします。大学院生は従来どおり 5,000 円です。なお、法人会員の会費は一口 20,000 円 (何口でも可) となっておりますので、よろしくをお願いいたします。寄付は金額にかかわらずお受けしております。

1 年以上未納の方には 雑誌が送られなくなります。3 年未納が続きますと、ご連絡の上、会員から除籍されますのでくれぐれもご注意下さい。お忙しいとは存じますが、振込みをどうぞよろしくお願い申し上げます。会費についてご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

《第 9 回「秋野豊賞」募集のお知らせ》

秋野豊ユーラシア基金 (代表：秋野洋子) では、今年も若手研究者を対象とした紛争調査プロジェクト「秋野豊賞」を募集しています。

対象：ユーラシア大陸 (欧州、ロシア、中央アジア、中近東、南アジア、東南アジア、東アジア) の紛争および安全保障の問題について、海外での調査を踏まえた研究活動を行う熱意を持った人。

ここでいう「海外での調査を踏まえた研究活動」は、海外の外交史料館などでの調査による歴史的・外交史的な研究 (ただし第二次世界大戦以降) を含むものとします。

応募資格：原則として大学院生およびオーバードクター (常勤職についていないこと)

定員：若干名 (第 7 回実績 2 名、第 8 回実績 2 名)
助成金額：1 名につき 40 万円 (旅費およびそれに伴う調査費・研究費など)

特典：受賞者は研究報告書提出後、秋野豊ユーラシ

ア基金出版助成への応募資格が得られます。

応募書類：

1. 履歴書（市販のもので結構です。連絡用のメールアドレス明記のこと。）

2. 調査・研究プロジェクト計画書：A4版の用紙にワープロにて以下の項目に従って調査・研究プロジェクトを日本語で作成し、3部提出してください。その際、分量は4000字以内とし、冒頭にはタイトル（表題）を付してください。なお、審査の都合上、氏名は記載しないでください。

(1) どのような紛争・安全保障の問題に関心を持っているか

(2) 具体的に何をやりたいのか

(3) どこでどのような調査研究を行うのか

(4) どのような効果・成果が期待できるのか

3. これまでの活動実績・業績などがあれば、3点以内を添付してください。

締め切り：2007年5月11日（金）午後5時必着

（11日の消印有効ではありません）

採用決定日：2007年6月上旬予定

応募先：

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-51-1

初台センタービル803

秋野豊ユーラシア基金事務局 宛

問い合わせ先：問い合わせはEメールで秋野豊ユーラシア基金事務局宛をお願いします。

E-mail: info@akinoyutaka.org

審査委員会（予定を含む）

審査委員長 伊東孝之（早稲田大学教授）

審査委員 柴 宜弘（東京大学教授）

立山良司（防衛大学校教授）

林 忠行（北海道大学教授）

毛里和子（早稲田大学教授）

村井友秀（防衛大学校教授）

詳しい募集要項については秋野豊ユーラシア基金ホームページ（<http://www.akinoyutaka.org>）からご覧ください。

《事務局より》

2006年度の大会が、成功裏に終了し、また会員の皆様のご協力により行われた選挙を踏まえ、新理事40名が選出されました。若手研究者、地方在住者、中央アジア、バルトの専門家、女性など、多くの刷新があり、400名学会にふさわしい新体制となりました。また新理事会では、400名規模の学会への成長に伴い、広報、対外交流、会務などの分担体制を敷くことが了承されました。会員の皆様のご協力を是非よろしくお願いいたします。

現在、自由論題の募集が始まっています。大学院生をはじめ、若手、中堅、壮年の皆様方の積極的なご報告希望を、よろしくお願いいたします。

あわせて、会費の納入をお願いしております。学会は、皆様の会費で成り立っております。会の活発な運営のためにも、会費納入にご協力ください。

会員の皆様の、学会への積極的なご参加、ご要望、そして年次大会での積極的なご報告や関与などを、ぜひ宜しくお願いいたします。

ありがとうございました。（羽場）

2001年の第1号立ち上げ以来ニューズレターを担当されてきた上野俊彦さんから、編集作業を引き継ぐこととなりました。従来の理事会の内容や各種お知らせに加え、会員の皆さんの「声」もできる限り伝えられるよう努めたいと思います。ご協力を宜しくお願いいたします。（湯浅）

ロシア・東欧学会ニューズレター 第14号（2007年4月発行）

《発行：学会事務局》

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

青山学院大学国際政治経済学部

羽場久美子研究室 気付

E-mail: jarees_office@yahoo.co.jp

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/roto/index.html>

ニューズレター編集担当：湯浅 剛

E-mail: ty@nids.go.jp